

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																															
ASOポップカルチャー専門学校		平成30年3月8日		瀧口 博俊		〒 812-0016 (住所) 福岡県福岡市博多区博多駅南1-13-24 (電話) 092-415-2023																															
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																															
学校法人麻生塾		昭和26年3月12日		理事長 麻生 健		〒 820-0018 (住所) 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999																															
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																															
文化・教養	文化・教養専門課程	コミックイラスト科 (イラストコース)		令和元(2019)年度	-	令和2(2020)年度																															
学科の目的	イラスト制作による実践教育を通して、一人ひとりの個性を伸ばしていく。高い基礎画力を持ち幅広い分野に対応できるクリエイターを育成する。																																				
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	取得可能な検定:Illustratorクリエイター能力認定試験/Photoshopクリエイター能力認定試験/色彩検定 退学理由:精神的な理由、進路変更、学習意欲の低下など合計5名の中退となり中退率6.6%となった。																																				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																													
2年	昼	※単位時間、単位いずれかに記入	単位時間 62 単位	単位時間 8 単位	単位時間 53 単位	単位時間 17 単位	単位時間 0 単位	単位時間 0 単位																													
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																	
90 人の内数	52 人	1 人		2 %																																	
就職等の状況	<p>■卒業生数(C) : 44 人</p> <p>■就職希望者数(D) : 23 人</p> <p>■就職者数(E) : 23 人</p> <p>■地元就職者数(F) : 9 人</p> <p>■就職率(E/D) : 100 %</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 39 %</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 52 %</p> <p>■進学者数 : 3 人</p> <p>■その他</p> <p>就職実務の授業において、業界理解/履歴書指導/面接練習の対策を実施 就職者及び進学者以外:就職斡旋希望せず:18名 (令和4年度卒業生に関する令和5年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 (令和4年度卒業生) ゲーム会社のイラストレーター、デザイナー、映像制作、デジタルマンガ制作</p>																																				
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価: 無</p> <p>※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																				
当該学科のホームページURL	<a href="https://asojuku.ac.jp/apc/illustration/">https://asojuku.ac.jp/apc/illustration/</a>																																				
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>78 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>2 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>20 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>0 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>2 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位</td></tr> </table>									総授業時数	単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間	うち必修授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間	総授業時数	78 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	2 単位	うち必修授業時数	20 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	2 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位
総授業時数	単位時間																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	単位時間																																				
うち必修授業時数	単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	単位時間																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	単位時間																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	単位時間																																				
総授業時数	78 単位																																				
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																				
うち企業等と連携した演習の授業時数	2 単位																																				
うち必修授業時数	20 単位																																				
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	0 単位																																				
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	2 単位																																				
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位																																				
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>5 人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0 人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5 人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 5 人</p>									① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	5 人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人	計	5 人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	5 人																																				
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0 人																																				
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0 人																																				
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0 人																																				
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0 人																																				
計	5 人																																				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

イラスト・ゲームグラフィックの動向や即戦力に必要な知識・技術を把握するために、ゲーム企業・デザイン企業からのヒアリングを行う。更に、当校での就職をサポートしている部署が企業に対してアンケートを実施し、それらの結果情報を元に、授業科目の開設に関する検討を行う。

教務部で構成されたカリキュラム会議で、授業内容や方法を話し合い、カリキュラム案を作成し、教育課程編成委員会で各方面からの意見をいただく。さらに、その意見を集約し、カリキュラム会議で授業科目の開設や授業方法の改善としてまとめる。教育課程編成委員会は、本校教職員の他に、専攻分野に関する企業等の役職員または有識者2人以上の委員をメンバーとする。年2回以上の会合を行い、次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

(1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項

(2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項

(3)教科書・教材の選定に関する事項

(4)その他教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項使用するハードウェアやソフトウェアに関しては、授業運営を実践する為に必要となるものを準備して効果的に授業を実施する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

専門性に関する動向や業界動向等について意見交換を行い、より実践的な職業教育の質を確保することを目的として教育課程編成委員会を設置する。

委員会では、前年度の取組みの結果を元に担当教員が作成したカリキュラム案を提示し、カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項ならびに各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項等について審議する。

教育課程編成委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

(1)教育課程の編成の責任者又はそれに準ずる者

(2)専攻分野に関する企業等の役職員又は有識者 2人以上

(3)委員会が必要と認める教員 1人以上

教育課程編成委員会の意見は、各学科または各系のカリキュラム会議において、カリキュラムの改善(授業科目の新設、変更や、授業方法の改善・工夫)などにできる限り反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和5年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
菅田 哲朗	協同組合 日本イラストレーション協会	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	①
足立 憲一	株式会社ワコム アカウントマネージャー	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	③
上野 哲史	ASOポップカルチャー専門学校 リーダー	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、

地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)

②学会や学術機関等の有識者

③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(7月、11月)

(開催日時(実績))

令和4年度第1回 令和4年7月6日 16:30～17:00

令和4年度第2回 令和4年11月22日 16:30～17:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

近年、業界全体が単に絵が上手いだけでなく、レイアウト込みで作画出来る人材を求められているという意見を受け、構図やレンズの理解を深める授業を展開している。

まずは基本構図、ライティングを使いこなせるように野外での撮影演習やサムネイルスケッチの実施を行った。

また、「描きたい絵がない」「インプットの仕方を知らない」ような学生が増えており、アンテナの狭さが問題提起されたことを受け、学校側で行事や他ジャンルの作品の紹介を行い、課外的に様々な物に触れる機会を作るように検討した。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

基礎知識を体系的に学習した学生に対して、実践能力を向上させる目的で研究テーマの選定や技術指導など、演習科目を中心に企業等と連携した授業を実施する。実践的な技術指導を受けるだけでなく、技術者と直接コミュニケーションの機会を多く持つように運用する。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

実践で必要とされている知識や技術に関して企業・団体からヒアリングを実施し、課題テーマを設定する。イラスト分野であってもマンガ業界へデジタルマンガ制作のニーズが高まっている為、それに対応する為に「デジタルコミック演習Ⅰ」では、現役マンガ家のアシスタント業務をフィードバックした処理方法を演習課題とし基礎的なデジタルマンガ技法や表現方法を学んでいる。各課題テーマや進捗状況のレビューを企業と連携して実施している。レビューでは、相互に意見交換ができる環境を準備しディスカッションを行う。

演習修了時には、学生に対し今後の課題提示を行うと共に、企業の講師による学生の学習成果の評価を踏まえ、担当教員が成績評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
デジタルコミック演習Ⅰ	自分の目指す業界についての造詣を深め、生涯に渡って活躍できる人材像について学習する。	polepoleLABO

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究（以下「研修等」という。）の基本方針

学校法人麻生塾 教職員研修規程に基づき、教職員に対して研修を行う。

教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。

専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、より高度な職務を遂行するために必要な知識を修得させる。また、教育課程編成委員会などの意見を元に作成したカリキュラムを運用するために必要となる知識や技術と教員とのスキルを比較し、不足しているものを中心に研修計画を立てる。外部の教育機関が実施する研修または企業等から講師を招いての研修を受講する。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	CEDEC+KYUSHU2022	連携企業等:	CEDEC+KYUSHU2022実行委員会
期間:	令和4年11月12日(土)	対象:	上野
内容:	ゲームクリエイター向けのデジタルエンターテインメント技術の講演。(株)レベルファイブや(株)サイバーコネクトツー、(株)ガンバリオン等のゲームデザイン、ゲームプログラムに関する各企業のノウハウや制作事例の講義を受講し、最新の業界動向や技術を学ぶ。		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	アサーティブコミュニケーション	連携企業等:	組織デザイン・ラボ
期間:	2022年8月17日(水)	対象:	山下
内容:	言いにくいこと言わなければならない場面を想定した事例を使って、相手も自分も尊重した伝え方について学び、実践する。		
研修名:	授業におけるファシリテーション オンライン授業編	連携企業等:	株式会社ONDO
期間:	2022年8月31日(水)	対象:	上野
内容:	学生の発言を引き出す質問のコツ、上手な意見のまとめ方、オンラインファシリテーションのポイントについて学ぶ。		

<b>(3) 研修等の計画</b>																									
<b>① 専攻分野における実務に関する研修等</b>																									
<b>研修名:</b> WCCCクリエイティブコラボウェビナー『クリエイティブ業界最前線2023』 <b>期間:</b> 令和5年6月20日(火) <b>内容:</b> ワコム製品を通じて、ゲーム・アニメ・CGなどクリエイティブ市場の最新概況、また制作環境や最新の技術トレンドなどを学ぶ。	<b>連携企業等:</b> 株式会社ワコム <b>対象:</b> 徳永																								
<b>研修名:</b> WCCCクリエイティブコラボウェビナー『ゲームグラフィック・コンセプトアートデザイン編』 <b>期間:</b> 令和5年6月21日(水) <b>内容:</b> ファイナルファンタジーシリーズのアートディレクターとして活躍されているコンセプトアーティスト本庄さんより、ゲームグラフィック開発の現場で求められるクリエイターのスキル、世界観を支えるコンセプトアートの重要性を学ぶ。	<b>連携企業等:</b> 株式会社ワコム <b>対象:</b> 徳永																								
<b>② 指導力の修得・向上のための研修等</b>																									
<b>研修名:</b> セルフマネジメント～困難な状況でも平静を保つために <b>期間:</b> 令和5年8月22日(火) <b>内容:</b> 困難な状況においても、平常心を保って適切な対応ができるようになるために、具体的には事実を単なる事実としての確に捉え、自分の中に沸き起こる感情に惑わされることなく、判断し対応する方法を学ぶ。自分自身のケースを題材としながら、演習と対話を中心に進める。	<b>連携企業等:</b> オフィス シックスエイト <b>対象:</b> 徳永																								
4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係																									
(1) 学校関係者評価の基本方針 本校の基本方針に基づき、学校運営が適正に行われているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりを行う。																									
(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応																									
<table border="1"> <thead> <tr> <th>ガイドラインの評価項目</th> <th>学校が設定する評価項目</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 教育理念・目標</td> <td>法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他</td> </tr> <tr> <td>(2) 学校運営</td> <td>運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他</td> </tr> <tr> <td>(3) 教育活動</td> <td>業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他</td> </tr> <tr> <td>(4) 学修成果</td> <td>教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他</td> </tr> <tr> <td>(5) 学生支援</td> <td>修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他</td> </tr> <tr> <td>(6) 教育環境</td> <td>教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他</td> </tr> <tr> <td>(7) 学生の受入れ募集</td> <td>APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試</td> </tr> <tr> <td>(8) 財務</td> <td>財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開</td> </tr> <tr> <td>(9) 法令等の遵守</td> <td>専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他</td> </tr> <tr> <td>(10) 社会貢献・地域貢献</td> <td>社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他</td> </tr> <tr> <td>(11) 国際交流</td> <td>留学生の受入れ、支援体制</td> </tr> </tbody> </table>	ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目	(1) 教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他	(2) 学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他	(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他	(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他	(5) 学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他	(6) 教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他	(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試	(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開	(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他	(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他	(11) 国際交流	留学生の受入れ、支援体制	
ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目																								
(1) 教育理念・目標	法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人材像、他																								
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、人事・給与規程、業務効率化、他																								
(3) 教育活動	業界の人材ニーズに沿った教育、実践的な職業教育、教職員の資質向上、他																								
(4) 学修成果	教育目的達成に向けた目標設定、事後の評価・検証、就職率、退学率、他																								
(5) 学生支援	修学支援、生活支援、進路支援、卒業生への支援、他																								
(6) 教育環境	教育設備・教具の管理・整備、安全対策、就職指導室・図書室の整備、他																								
(7) 学生の受入れ募集	APの明示、進路ニーズ把握、パンフレット・募集要項の内容、公正・適切な入試																								
(8) 財務	財政的基盤の確立、適切な予算編成・執行、会計監査、財務情報公開																								
(9) 法令等の遵守	専修学校設置基準の遵守、学内諸規程の整備・運用、自己点検・評価、他																								
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献、地域貢献、学生のボランティア活動の推奨、他																								
(11) 国際交流	留学生の受入れ、支援体制																								
※(10)及び(11)については任意記載。																									
(3) 学校関係者評価結果の活用状況 技術の進歩の著しい業界にあつて、育成人材像に沿った教育の整備・実施を継続してほしいとのご意見をいただく。これを受けて本校では、教員個々の業務の幅を広げる為に「月次授業運営報告書」を導入し運用を行い、コマシラバス通りの授業運営になっているかのチェックを行った。毎月の報告書に基づき授業進捗の確認することで、教員自身の振り返りにも寄与した。																									

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
大山 明	久留米市外三市町高等学校組合立三井中央高等学校 学校長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	高等学校関係者
浦川 美代子	博多駅南1丁目1区自治会 自治会長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	地域住民
大輪 健太郎	マンガ・イラスト・CG科CGコース 卒業生	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	卒業生
松尾 裕之	ゲーム・CG専攻科ゲーム専攻 保護者	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	保護者等
今治 智隆	株式会社ヴァイス 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
瀧口 大介	株式会社マトリックス 福岡開発室 室長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
宮迫 靖	株式会社D・A・G 本部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
小林 浩康	株式会社プロジェクトスタジオQ 代表取締役社長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
森 瞭維智	株式会社FOREST Hunting One 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
吉田 健	株式会社ピコナ 代表取締役	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
久保 陽太	漫画家(個人事業主)	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
河原 洋	株式会社studio A-CAT 福岡支社 支部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
前田 大輔	コミックスマート株式会社 コンテンツ本部長	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員
足立 憲一	株式会社ワコム アカウントマネージャー	令和5年4月1日～令和7年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。  
 (例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )  
 URL: <https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/doc/apc/2023/hyoka.pdf>  
 公表時期: 令和5年9月29日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職指導状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者、保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めていただくことを目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	歴史、教育理念、教育目標、特色、5つの個性
(2) 各学科等の教育	入学者受入れ方針、教育課程編成・実施方針、カリキュラム、就職実績
(3) 教職員	教員一覧及び実務家教員科目
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職サポート、GCB教育、企業連携
(5) 様々な教育活動・教育環境	学園祭、部活動・サークル活動、学外ボランティア
(6) 学生の生活支援	生活環境サポート、留学生キャンパスライフ
(7) 学生納付金・修学支援	学費とサポート、学習支援(各種支援制度)
(8) 学校の財務	事業報告書、貸借対照表、収支計算書、財産目録、監査報告書
(9) 学校評価	自己点検・評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	留学生入学案内、留学生学べる分野、グローバル教育
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )  
 URL: <https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/apc/>  
<https://asojuku.ac.jp/about/disclosure/>  
<https://asojuku.ac.jp/apc/>

公表時期: 令和5年7月31日

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程コミックイラスト科イラストコース) 令和5年度																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・ 学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業 等との 連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			GCB I	グローバル化がますます進む社会の中で、感謝と思いやりをベースに高い人間力と、世界で通用するグローバル感覚を持った人材を目指す	1前	15	1	○			○		○		
2		○		色彩技法 I	色の働き、光と色、色の表示を学び、作品でのカラーカットなど実技を行い習得する。※色彩検定	1前	30	2	○			○				○
3		○		空間表現 I	遠近感表現、及び構図の取り方について、様々なシチュエーションに合わせて表現する手法を学ぶ。	1前	30	2		○		○			○	
4		○		人体表現 I	人の骨格や筋肉の構造を理解し、様々なポーズを描く技術を習得する。	1前	60	1			○	○				○
5		○		デザイン演習 I	IllustratorやPhotoshopでの基本操作を取得し、レイアウトの基本をマスターしていく。Live2DやSpineでの稼働を想定したSDのパーツ分け、レイヤー管理の学習。	1前	60	4		○		○			○	
6		○		イラストテクニク I	人間の顔・顔のパーツ・身体の描き方の表現方法(リアル～デフォルメ)の幅を学び、課題テーマに合ったキャラクターを作成しながら、自らの絵柄を会得する。(アナログ/デジタル)	1前	60	4		○		○			○	
7		○		背景演習 I	様々な背景の表現手法を演習を通じて習得する。	1前	60	4		○		○			○	
8		○		コンセプト制作 I	1枚絵の作業工程を学び、背景とキャラクターを両立させたイラストを完成させる。※作品展	1前	90	2			○	○			○	
9	○			GCB II	国際人として、「夢」と「ビジョン」と「志」を持ち、仕事に対する高い意識を持った、世界に貢献できる人材を目指す	1後	15	1	○			○			○	
10		○		就職実務	就職活動に必要な、身だしなみ・書類作成・活動の仕方についての一連の流れを習得する。	1後	15	1		○		○			○	
11		○		色彩技法 II	色の働き、光と色、色の表示を学び、作品でのカラーカットなど実技を行い習得する。※色彩検定	1後	30	2	○			○				○

(文化・教養専門課程コミックイラスト科イラストコース) 令和5年度															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当 年次・ 学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
必修	選択必修	自由選択													
12	○		空間表現Ⅱ	遠近感表現、及び構図の取り方について、様々なシチュエーションに合わせて表現する手法を学ぶ。	1後	30	2	○			○		○		
13	○		人体表現Ⅱ	人の骨格や筋肉の構造を理解し、様々なポーズを描く技術を習得する。	1後	60	1			○	○			○	
14	○		デザイン演習Ⅱ	IllustratorやPhotoshopでの基本操作を取得し、レイアウトの基本をマスターしていく。Live2DやSpineでの稼働を想定したSDのパーツ分け、レイヤー管理の学習。	1後	60	4	○			○		○		
15	○		イラストテクニックⅡ	人間の顔・顔のパーツ・身体の描き方の表現方法(リアル～デフォルメ)の幅を学び、課題テーマに合ったキャラクターを作成しながら、自らの絵柄を会得する。(アナログ/デジタル)	1後	60	4	○			○		○		
16	○		背景演習Ⅱ	様々な背景の表現手法を演習を通じて習得する。	1後	60	4	○			○		○		
17	○		コンセプト制作Ⅱ	1枚絵の作業工程を学び、背景とキャラクターを両立させたイラストを完成させる。 ※作品展	1後	120	3			○	○		○		
18	○		キャリアデザインⅠ	自分の目指す業界についての造詣を深め、生涯に渡って活躍できる人材像について学習する。	2前	60	4	○			○		○		
19	○		ビジネス実務	就職(就活)前におさえておきたいビジネス知識や社会人のマナーを学び、個人・チームで働く為のスキルやビジネスマインドを身につける。	2前	30	2	○			○			○	
20	○		企画制作Ⅰ	希望職種ごとに設定された課題の作成を行う。クオリティとスピードの両立を図っていく。	2前	90	2				○	○		○	
21	○		企画制作Ⅱ	希望職種ごとに設定された課題の作成を行う。クオリティとスピードの両立を図っていく。	2前	90	2				○	○		○	
22	○		キャラクターデザインⅠ	グループワーク制作による、企画力、協調性、積極性の成長を図る。制作においてこだわった部分を言語化するなどのアピール力をつける。	2前	60	1				○	○		○	
23	○		デジタルコミック演習Ⅰ	自分の目指す業界についての造詣を深め、生涯に渡って活躍できる人材像について学習する。	2前	30	2	○			○			○	○

(文化・教養専門課程コミックイラスト科イラストコース) 令和5年度																
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任		
24		○	実践技術研究 I	これまで習得してきた技術を使い業界に通用する作品を制作して受賞を目標にする。	2 前	90	6		○		○					
25	○		キャリアデザイン II	これまで習得してきた技術を使い業界に通用する作品を制作して受賞を目標にする。	2 後	60	4		○		○					
26	○		卒業制作 I	グループワーク制作による、企画力、協調性、積極性の成長を図る。制作においてこだわった部分を言語化するなどのアピール力をつける。	2 後	90	2			○	○					
27	○		卒業制作 II	人間の顔・顔のパーツ・身体の描き方の表現方法(リアル～デフォルメ)の幅を学び、課題テーマに合ったキャラクターを作成しながら、自らの絵柄を会得する。(アナログ/デジタル)	2 後	90	2			○	○					
28		○	キャラクターデザイン II	デジタルツールでのマンガ作品課題を通じて、基礎的なデジタルマンガ技法や表現方法を学ぶ。	2 後	60	1			○	○					
29		○	デジタルコミック演習 II	人間の顔・顔のパーツ・身体の描き方の表現方法(リアル～デフォルメ)の幅を学び、課題テーマに合ったキャラクターを作成しながら、自らの絵柄を会得する。(アナログ/デジタル)	2 後	30	2		○		○				○	
30		○	実践技術研究 II	デジタルツールでのマンガ作品課題を通じて、基礎的なデジタルマンガ技法や表現方法を学ぶ。	2 後	90	6		○		○					
合計					30 科目			78 単位 (単位時間)								

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件： ・ 2年以上在学し必須科目と選択科目から62単位以上を修得していること ・ 学生としてふさわしい生活態度である事	1 学年の学期区分	2 期
履修方法： ・ 各学年に指定された必須科目及び選択科目を履修すること	1 学期の授業期間	15 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。